



未来を夢見て

2020/4/30 No. 5

歩いたところに道はできる

～佐藤P会長さん、槻田さん、児童館の皆様 見守り隊の皆様とお会いして～

あつという間に4月30日を迎えました。と言ってもあまり実感はなく、前任校で休校が始まった3月2日から連続して春休みが続いている感じです。この間、何と言っても見通しがもてないのが一番辛いところですが、私たち以上に、子供たちや保護者の皆様は焦燥感が募り、心身ともにお疲れになっていることと思います。とにかく、今は感染拡大防止のための取り組みが第一ですが、私たち学校としては、近づいてきた学校再開に向けて、万全の体制を整えていくことが使命です。

先日、PTA 総会の資料に一部誤植があることが分かり、慌てて修正する事態となりました。ただ、その「おかげ」で私からお詫びの電話を直接PTAの前会長の千田さんに差し上げることになり、そのご縁で、今度は次期会長（予定）の佐藤さんとお会いすることができました。初対面ではありましたが、**子供たちのためになることはどんどんやりましょう**、という一番大事な所は共有できたので大変心強く思いました。

また、午後には、佐藤さんのご縁で、子供たちの通学時、毎朝街頭指導をさせていただいている槻田さん（大和町議会議員）をご紹介いただき、学校再開に向けた取り組みについて快く快諾していただくことができました。その後、徳田教頭先生、島貫先生と、もみじヶ丘団地内を歩きながら見守り隊の澤田さん小山さんのお宅を訪問し、学校再開に向けての協力をお願いし、快く引き受けていただくことができました。

先生方にもお伝えした通り、今週は4名の支援員さんに、もみじヶ丘、杜の丘、それぞれの児童館に応援に行ってもらっています。（写真上が杜の丘、下がもみじヶ丘）そのこともあって、できるだけ私も児童館を訪れるようにしています。どちらの児童館でも、支援員さんの派遣に大変感謝していただき、また、こちらでも、学校再開に向けた対応についてご理解いただき、ご協力をいただくことができました。

本来は、あまり出歩くべきではないことは承知しておりますが、メールや電話だけでなく、時には足を運んでお会いしたり、お願いしたりすることの大事さを今回は改めて感じました。そして、今週お会いした小野小学校にかかわるすべての皆様に共通している思いは「**子供たちのために**」という強い思いでした。

標題、「歩いたところに道ができる」は私が初任の教頭時代に当時の校長先生から教えていただいた言葉です。手を抜かず、自分の足で歩き、そしてお会いして話をすることの大切さを教えていただいた忘れられない言葉です。先日、学区内を歩いていて、驚くほど静かで、そして、ほとんど子供たちの姿が見えないことに改めて驚きました。この様子からも、多くのご家庭で、不要不急の外出をせず、多くの子供たちが自宅で過ごしていることを実感しました。4月28日（火）には5月7日に予定している入学式のリハを1年生の担任の先生方と行いました。129名の1年生を2回に分けて行う、こちらも異例の入学式です。

保護者の皆様にとっては、大切な我が子が入学式を迎えることの嬉しさは何ものにも変えられないもの、そして初めてランドセルを背負って登校する姿には我が子の成長を感じ、親としての責任を一層強く持つことと思われまふ。現在の情勢を考えると、予定通りの学校再開は大変難しい判断になることは皆さんご承知の通りです。ただ、いつか迎えるその日を信じて、子供たちのためにできること、小野小の職員一丸となって万全を尽くしていきましょう。

（文責：手代木）

